

宮城県に古川学園高校という学校がある。以前は、古川商業高校という校名だった。この学校名を聞いたことがある方は多いのではなかろうか。高校バレーボール界の強豪校の一つである。この古川商業を全国優勝12回に導き、名将として知られる国分秀男という方がいる。以下に、国分秀男氏のお話を紹介する。

合計77回全国大会に出場して、12回全国制覇しました。しかし、それは裏を返せば優勝したのは12回だけで、あとの65回は全部負けたとも言えます。

勝てば勝ったで、好むと好まざるにかかわらず敵が増え、いいようもないわびしさや孤独感と戦わなければなりません。

人は成功した部分だけを見て他人を羨んだりしますが、その陰には何十倍、何百倍もの苦しみがあるものです。

長い人生、誰もが苦しい場面に遭遇する時があります。しかし、それをどう受け止めるかが大事です。

これまでたくさんの人を見てきましたが、概ね三つのタイプに分かれると思います。

一つは、苦しくなると「もうダメだ、無理だ」と思う「絶望諦め型」。

二つめは、「いやだけど、しょうがないからやるか」という「消極的納得型」。

そして三つめは、「この苦しみは俺を磨いてくれる。これを乗り越えれば一つ賢くなれる」と考える「積極的プラス思考型」。

結局、歴史に名を残すような偉人や成功者は、三番目の人間からしか生まれません。一、二、三のどのタイプの人間になるかは考え方一つです。

お金がかかるわけじゃない。努力がいるわけでもない。時間もかからない。物事の見方をちょっと変えるだけでいい。

しかし、人はなかなかその考え方を変えることができません。だから偉人の話を聞き、良書を読むのです。

過去に事を成し遂げた人たちが、どうやって困難を乗り越えてきたか、それに触れることで考え方を変えることができると思います。

私は辛いときはいつも「俺よりももっと苦しい目に遭って頑張った人がいたじゃないか。あの人ができたんだから、俺だって乗り越えられる」と言い聞かせ、夢に食らいついてきました。

この世で我慢の時なくして夢を実現した人は一人もいません。夢を追うなら、我が身に降りかかるすべてを積極的プラス思考で受け止め、簡単に諦めないこと。それが人生を開発していく基本ではないかと思います。

以上のように、三つのタイプを示されれば、自分はどのタイプだろうかと考えたくなる。人の教育に携わる教員なのだから、三番目の「積極的プラス思考型」と言いたいところである。だが、私の場合は「積極的プラス思考型」になろうとしている「消極的納得型」である。つまりは「消極的納得型」である。国分氏の言うとおりに、人はなかなかその考え方を変えることができないものなのだと思う。日々修行あるのみである。